平成 28 年度讃岐国府跡発掘調査現地説明会資料

香川県坂出市府中町所在

讃岐国府跡の発掘調査

平成 29 年 2 月 11 日　香川県埋蔵文化財センター

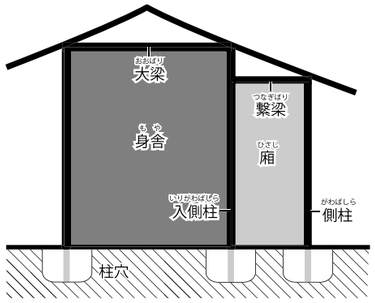
3　南北主軸の大型建物（34-3 区）

西側に廂をもつ大型建物です。 床面積は 72 ㎡に復元できます。 入側柱には2つの柱痕跡がありますので、 少なくとも1回の建て替えが行われたと考えられます。 廂の柱穴には柱痕跡は一つしかありませんので、 建て替え時に廂は撤去された可能性があります。

▲　34-3 区　南北主軸の大型建物（北から）

▲　34-3 区　大型建物の入側柱の柱痕跡

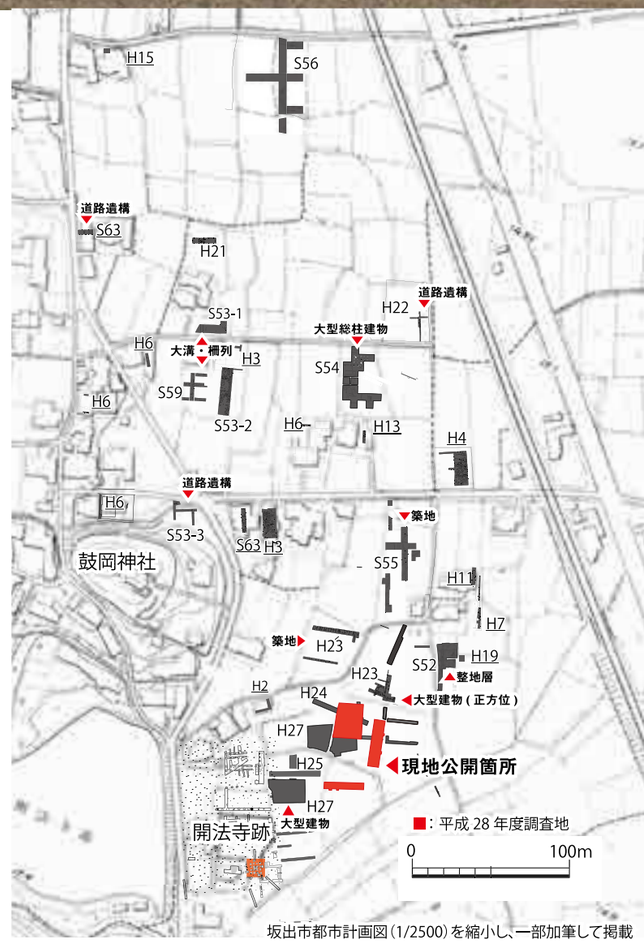
直径約 20 ㎝の太い柱が使われています。



▲　廂付き建物の構造模式図

▲　讃岐国府の位置

▲　讃岐国府周辺の歴史的環境



坂出市都市計画図（1/2500）を縮小し、一部加筆して掲載

▲　讃岐国府跡における発掘調査地点

4　正方位主軸基調の建物群（34-2 区）

飛鳥時代末から奈良時代初め頃の建物が3棟見つかりました。 同時代の建物はこれまで真北を基準に規格的に配置されたものを確認していましたが、 今回はあらたに真北からわずかに振れた主軸方位の建物を確認しました。 この3棟は規則的に配置されており、 初期の官衙（役所）とみられますが、 讃岐国府との関係については今後の検討が必要です。

▲　34-2 区　正方位基調の建物（南から）

▲　正方位建物群（■）と
正方位基調の建物群（■）の分布

1　讃岐国府とは

国府とは、奈良時代（約 1300 年前）の古代国家の成立とともに、地方統治の中心として国ごとに置かれた役所で、現在の都道府県庁のような施設です。讃岐国府は、奈良時代から鎌倉時代（約 700 年前）にかけて機能し、菅原道真（845 ～ 903 年）が国府の長官である讃岐守を務め、崇徳上皇（1119 ～ 1164）が晩年を過ごしたことでも有名です。

国府は、都や国内の郡衙（ぐんが）との連絡がとれるように交通の要衝に設置される事例が多く、讃岐国府も付近に官道の南（なん）街道（かいどう）が東西に通じ、瀬戸内海と綾川を介して約 4 km で繋がるなど、陸・水上交通の接点となる場所に営まれています。また、周辺に建立された讃岐国分寺（さぬきこくぶんじ）・国分尼寺（こくぶんに）などとともに、讃岐国府の中心となる地域を形成していました。

政庁　せいちょう（国庁　こくちょう）‥‥国府の中でも中枢となる施設で、儀式や政務の場
国衙　こくが‥‥国庁や行政実務を行う曹司（ぞうし）などの諸施設群の総称
国府　こくふ‥‥国衙や国司の宿舎である国司館、市などが営まれた地区全域の総称

讃岐国府跡の発掘調査　平成28年度讃岐国府跡現地説明会資料　2017年2月11日発行
編集・発行　香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024　香川県坂出市府中町南谷 5001-4　Tel: 0877-48-2191　Fax: 0877-48-3249
Email: maibun@pref.kagawa.lg.jp　http://www.pref.kagawa.lg/maibun/

2　建物の分布

今年度は大きな調査区を設定したことで、広い範囲における建物の配置状況が明らかになり、区画施設内の空間構成の一端が見えてきました。区画施設内の建物は、複数の建物の端を直線的なラインで揃える等、基準線といった基軸となるものに基づいて、規格的に配置されていると考えられます。

▲　主な建物・溝の分布（赤枠が今年度調査区）

▲　34-3 区　南北主軸建物の建て替え（北から）

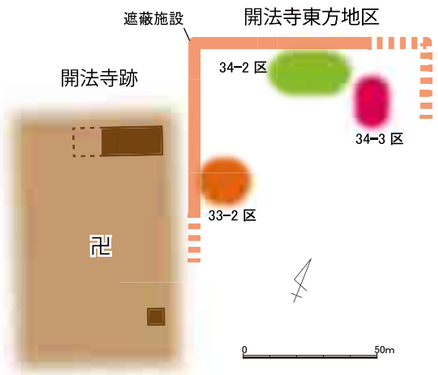
半世紀以上の時間差がありながらも、南北主軸の建物が建て替えられています。

▲　33-2 区　大型建物（南から）H27 調査

同一地点で長期間に渡って、東西主軸の大型建物が建て替えられています。

▲　建物主軸方位が特徴的な３地点（北東から）

◇開法寺東方地区の空間構造に迫る◇



調査区	主な建物	建物主軸	建物数	建て替え状況
34-2 区	長舎建物ほか	東西	多数	頻繁な建て替え 建物の踏襲性
34-3 区	大型建物	南北	数棟	近接地での建て替え
33-2 区	超大型建物	東西	数棟	同一地点での建て替え

34-2 区周辺では東西主軸、34-3 区では南北主軸の建物が継続的に建てられていることが判明しました。さらに、34-2 区の建物間、34-2 区と 34-3 区の建物間において基準線ともいえる基軸があり、比較的広い範囲で複数の建物が規則的に配置されていることも分かりました。なかでも、34-2 区と 34-3 区の建物がＬ字形に配置されている点は、区画施設内の空間構造を考える上では重要な発見となります。

▲　34-2 区　柱穴検出状況（南東から）

多くの柱穴が重なり合っており、何度も建物が建て替えられたと考えられます。

▲　34-2 区　北半部遺構検出状況（東から）

柱穴が直線的に東西方向に並びます。多くの東西主軸の建物があったと考えられます。

▲　34-2 区　遺構図（左：遺構配置図、右：建物復元図）　※建物の色（帰属時期）は、左頁の凡例と同じ

本調査区は讃岐国府跡のなかで、最も遺構が密集した場所となります。長期間に渡って何度も建物の建て替えが行われたと考えられます。